



Vol.12 : 2023年7月

■ 第7回 小和田地区安否確認訓練を実施

小和田地区安否確認訓練を6月25日(日)に実施致しました。新型コロナウイルス感染症はインフルエンザ並みの扱いとなりましたので、ほぼコロナ禍前の手順での実施となりました。

今回は「施設安否確認」を同時に実施、事前に各施設宛てに配布した施設点検集計表を回収しました。一部、不備もありましたが、次回からの注意点とします。

午前9時より一斉に安否確認訓練を開始。各自治会からの報告は11時30分に完了しました。結果は表1に示します。各自治会からの報告を以降に写真と掲載。

表1 安否確認訓練集計結果

自治会	新宿	本宿	赤松町	赤松	菱沼小和田	プランヴェール 湘南茅ヶ崎	合計
無事確認表示有	880	1,068	412	420	828	93	3,701
無事確認表示無	58	373	52	137	134	6	760
確認合計	938	1,441	464	557	962	99	4,461
安否確認世帯数比	93.8%	74.1%	88.8%	75.4%	86.1%	93.9%	83.0%
報告時刻	10:09	11:30	9:55	9:50	10:15	9:15	



小和田小学校本部



■ 本宿自治会

<訓練内容> 事前に自治会内へ「安否確認訓練の目的・協力」の案内文書等を全戸配布し、当日は、組長・班長・民生委員・防災リーダー・役員総勢240名体制で自治会内の3拠点(本宿町・小和田・赤松町)から自治会本部の会館へ、会館で集計後小和田小学校本部へ連絡し、終了時間は11時30分と当初予定時間を超過してしまった。11時30分から役員と民生委員で訓練の反省会を実施する。

安否確認対象施設：14件

<反省事項>

- ① 毎回のことだが、安否確認訓練の主旨が全員に充分浸透していない。(住民もスタッフも、確認タオルを確認だけすればよいと解釈している) 自治会がやっているからではなく、近隣同士の繋がりが「共助」の重要性を周知徹底する必要がある。
- ② タオルすら出せない方(高齢者・障がい者)がいる。イザと言う時には動けない。日頃からそのような方々が何処に居るのか、ご近所が認識しておくことがより大切であることを改めて感じました。

■ 新宿自治会

昨年の反省会で決めた、メガホンでの開始案内、「無事ですカード」非掲示世帯のインターフォン確認、避難行動要支援者支援、組名簿で確認、蛍光反射テープをカードに全世帯が貼付、を実施。開催案内は2回全戸に配布。組長班長始め約190名が確認作業に参加しました。結果、カードを掲示した世帯数は、参加938世帯中94%の880世帯となりました。これは昨年来の自治会行事がパワーとなり、新宿全体の意識が向上した表れと言えます。

課題は、集合住宅を主に約10%の不参加世帯があることと、避難が困難な方への対応が挙げられます。安否確認対象施設：7件



被災時には、まず自分と家族の安全を守る「自助」を。そして、次の段階で、身近な方々の安全を守る「近助」＝「共助」がとても重要です。

安否確認訓練を行うことで、近隣の方々の顔を知り、普段から挨拶を交わせる良い関係を築きましょう。

小和田地区自治会連合会発行

■赤松自治会

赤松自治会の旧エリアでは、8時過ぎからハンドスピーカーによる「震度5の地震が発生しました・・・」の自治会内へのアナウンスが安否確認訓練の合図です。9時にはYU-ZUルーム前に設営した本部に、組長と防災リーダー、役員が集合して竹内副会長の指示のもと、各組へ二人一組で確認に向かいました。

シエリアマンションでは写真に示したように、担架による搬送訓練も併せて実施しました。高層階を含めて4棟に分かれているため、確認作業は手間取っていました。

確認率は旧エリア210世帯で53.3%（アパート含む）、シエリア347世帯で88.8%、全体では557世帯で75.4%でした。数値的には昨年より確認率は増えましたが、アパートの確認率が極めて低いことが旧エリアの確認率の低さの要因です。

今後はアパート住人への対応をどの様にするかが大きな課題でしょう。安否確認対象施設：1件



■赤松町自治会

今回コロナ前に戻し、安否確認標識が掲示されていない世帯へは戸別訪問にて安否を確認した。

避難行動要支援対象者がすべて自治会加入世帯であり、かつ、非アパート居住者であることが確認できたため、他の安否確認対象世帯と同様の対応をとることを、民生委員児童委員と事前に合意し、当日を迎えた。

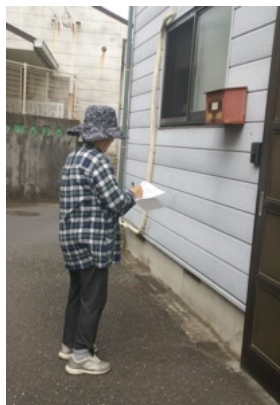
1組10～20世帯あたり、安否確認者を評議員（＝組長）1名のみで対応いただいている。評議員プラス防災リーダーの複数名で対応させたいが、人員に余裕がない状態。防災リーダーの人数を増やす活動が続けたい。

アパート住民については、住民の自治会への参加意識が低いこと、入口がロックされており中に入れず訪問による確認が難しいこと、等により、今年度も安否確認対象から除外した。本来であればアパート住民も安否確認対象世帯とすべきなので、検討を継続する。他自治会の好事例があれば取り入れていきたい。安否確認対象施設：1件

■菱沼小和田自治会

安否確認訓練に参加させて頂き感謝致します。天候にも恵まれ、参加者皆さんが怪我無く無事に終了し大変良かったです。有事の際、突発的に危機感を覚え正しい行動が出来る人は多くないと思います。いざと言う時に計画通りの行動に移せない事が想像され、いち早く危機感を悟り素早く行動に移せるようになる為にも、この訓練を何度も重ねておく事が重要と考えます。

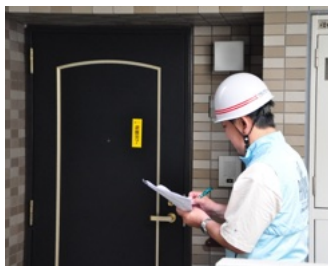
最後にこの訓練に関係された各位に御礼申し上げます。安否確認対象施設：6件



■プランヴェール湘南茅ヶ崎自治会

世帯数100戸のマンション単体の自治会ゆえ、この訓練に対する認知も十分で確認時間も10分程度と短時間でした。

マグネット式の「無事確認札」について、当日札がないと判明した世帯があったこと、自治会所有のトランシーバが、当自治会の本部と小和田小学校間で通信できず、実際の距離での事前確認が漏れていたことも次回への課題です。



編集後記：今年で7回目となった安否確認訓練、コロナ禍前の手順での対応が多く、インターホンで出し忘れ確認が出来ていました。この確認手順が近助＝共助につながるのでしょうか。一方、避難行動要支援者宅を訪問した

結果、民生委員とは顔なじみでも、自治会長の顔は知らず、つながりの薄さを痛感しました。また、アパートを対象外としている地域があり、実災害時のアパート住人への対応に大きな課題が残されていました。